

とうきょうすくわくプログラム活動報告書

施設番号	
施設名	マミー吉祥寺保育園
施設所在地	東京都武蔵野市吉祥寺東町 3-1-2
法人名	

1. 活動のテーマ

〈テーマ〉

リトミック

〈テーマの設定理由〉

園庭はあるが、幼児が身体を十分に動かす広さはないので主活動は公園で活動することが主。子どもの運動発達をみていく中で、身体の使い方が苦手な子どもや体幹が弱い子どもが多くなっていると感じていた。そんな中、子どもの経験を考えリトミックや体操の活動を取り入れていた。会社にその旨を相談したところ、リトミック講師を招き、子どもたちに向けて本格的にリトミック活動を行うことにした。

2. 活動スケジュール

令和8年2月(2回)から3月にかけて4回実地

3. 活動のために準備した素材や道具、環境の設定

- ・デジタルカメラ。ノートパソコン。
- ・電子ピアノ、楽器(鈴・カスタネット・ハンドベル)
- ・フラフープ、ボール

4. 探求活動の実践

〈活動の内容〉

【 2月 】

今まで、保育園で行っていたリトミックはピアノに合わせて、決まった動きを行う活動であった。専門的に楽器に触れる、音符のリズムを知るというよりは音に合わせて身体的な表現を楽しむという活動であった。

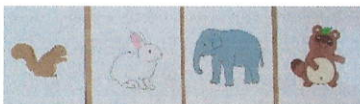
1回目は講師の先生のプログラムのもと「音に合わせた動きの表現」「音を聴き動く」「音符のリズム」「楽器に触れる」など様々な内容を行った。

残り3回のプログラムも上記の内容を繰り返し行い、子どもたちが慣れて、リトミックを楽しめる気持ちに繋げていく。

「音に合わせた動きの表現」

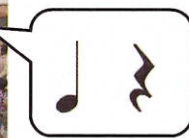
動物に合わせた動きを明確に伝えるのではなく、動物(りす・うさぎ・たねき・ぞう)のイラストを見せた後、4つの音を聴き、ピアノの音がどの動物を連想できるか、どんな動きの表現があるか子どもたちの身体表現に繋がる働きかけを行った。

どの動物の音かな～？



「音符のリズム」

音符のリズムは子どもたちにとってはクイズゲーム感覚となり、覚えていた。内容を少しずつ増やして来年度の楽しみに繋がるようにしていた。

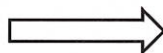


【コミュニティセンター】

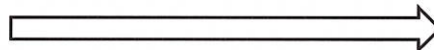
「音を聴き動く」



壁にペタ



止まる



ピアノの音に合わせて、コーンの周りを歩く。

「壁にペタ」「止まる」「しゃがむ」「ジャンプ」など、ピアノの音に合わせて動くなど保育室で行えない大きな動きを取り入れることができた。

〈活動中の子どもの姿・声、子ども同士や保育者との関わり〉

- ・最初は周りの様子を伺いながら身体を動かす姿が見られたが、ピアノに合わせて表現していくうちに感じるままに身体を動かすことを楽しむ姿に繋がっていた。
- ・リトミックに対して苦手意識を感じる子ども、後ろ向きな子どものもいることを予想していたが、次のリトミックを全員が楽しみにし、次年度も継続することで期待感をもっている。
- ・保育者も加わることで一緒になって楽しみ、また活動している姿を認めることで「やってみようとする自分」「できる自分」に気付き、自信に繋がっている様子。
- ・リトミックの取り組みを通し、講師がいない日も保育者が活動に入れることで、継続して楽しむことができ、子どもたちは遊びの1つとして捉え、楽しく活動出来ている。
- ・1列に並ぶ、友だちの取り組みを見るなど社会性も身に付いてきていると感じる。

5. 振り返り

〈振り返りによって得た保育者の気づき〉

- ・楽器の活動は取り入れていたが、専門的な目線で音を出す時の持ち方や音を鳴らさない時の持ち方などを保育者自身も学びとすることができた。
- ・新しい活動(リトミック)に対して子どもたちがとても前向きで、「楽しむ」「参加」する力をもっていると感じた。
- ・外部講師を招くことで、保育園の先生以外との関わりや話を聞く経験を得て、リトミックを楽しむだけでなく子どもたちの社会性や他の大人との関わりを広げる機会にもなった。
- ・2月からのリトミックを得て、楽器に対して苦手意識を持つ子どもも内容を変えるだけで、楽器に楽しく触れることができ、それが子どもの自信になっていると感じた。
- ・音符についてのリズムの理解や小学校で習うような専門的なことを保育園で遊びの延長として楽しく取り組むことができいい経験に繋がっていると感じた。また専門的なことも遊びやクイズのように子どもたちに触れる機会を作ること苦手意識を持たず触れることができていた。

「音を聴き動く」

ピアノの音を聴き、ボールを集める・止まる、3回屈伸・ボールを上に乗るといった動きを行った。1回目は今まで行ったことのない内容や目の前のボールに気持ちも高揚したが、回数を重ねる度に音を聴くことに気持ちが向き、ボールを集めながらも音を意識する姿が見られていた。



リズムに合わせてボールの片付け

「音符のリズム」

音符の記号に合わせて、講師の先生が手拍子の見本を見せる。

子どもたちがリズムを覚えた後、

カードをめくりクイズのようにリズム合わせを行う。



「楽器に触れる」

鈴・ハンドベルのグループに分かれる。基本的な楽器の持ち方・鳴らし方を教わる。

パートごとにリズムの合わせた鳴らし方に取り組み、最後に合わせることで1つの曲になる。

楽器は日常から使用していることで使い慣れているが、基本的な持ち方、音を鳴らさない時の持ち方など基礎を知ったことで、自分が音を出さない時には意識することができていた。



【パートごとに合わせる】

【合奏】

音を出さない時の持ち方

【 3月 】

3月は2回保育室、1回は市内のコミュニティセンターを借りて活動を行った。

「音を聴き動く」

ピアノの音に合わせて、フープの中を、ケン・ケン・パーで進み、マットに乗ってジャンプする動き。

耳ではピアノの音を聴き、頭では次の動作を考え表現する。

列を崩さないように1列に並んだり、前の友達の動きを見ることも大切な内容に含まれている。



【1列に並ぶ】

【ケン・ケン・パー】

【ジャンプ】

施設番号	
施設名	マミー吉祥寺保育園
施設所在地	東京都武蔵野市吉祥寺東町 3-1-2
法人名	

1. 活動のテーマ

〈テーマ〉

リトミック

〈テーマの設定理由〉

園庭はあるが、幼児が身体を十分に動かす広さはないので主活動は公園で活動することが主。子どもの運動発達をみていく中で、身体の使い方が苦手な子どもや体幹が弱い子どもが多くなっていると感じていた。そんな中、幼児クラスに向けてリトミックの講師を招くことにした。乳児クラスの保育者も子どもの活動を広げたい気持ちがあり、講師の先生に相談したところ、0、1歳に向けてもリトミックができるとのことだったので、今回、2回に分けて活動を行うこととした。

2. 活動スケジュール

令和8年2月(2回)から3月にかけて4回実地

3. 活動のために準備した素材や道具、環境の設定

- ・デジタルカメラ。ノートパソコン。
- ・電子ピアノ、楽器(鈴・カスタネット・ハンドベル)
- ・フラフープ、ボール

4. 探求活動の実践

〈活動の内容〉

乳児は活動の中で保育者が手遊びや体操を行うことが多かった。リトミックへの参加は初めての試みであった。講師の先生と相談したところ、0歳児より行えるということだったので、子どもの姿に合わせて、2月と3月合わせて2回、1歳クラス・0歳高月例児異年齢でリトミックの活動を行うこととした。1回目・2回目ともに講師の先生のプログラムのもと「音に合わせた動きの表現」「音を聴き動く」「楽器に触れる」など様々な内容を行った。

【2月 1回目】

「音に合わせた動きの表現」

動物に合わせた動きを明確に伝えるのではなく、動物(りす・うさぎ・たねき・ぞう)のイラストを見せた後、4つの音を聴き、ピアノの音がどの動物を連想できるか、どんな動きの表現があるか子どもの子どもたちの身体表現に繋がる働きかけを行った。

最初は周りの様子を伺いながら身体を動かす姿が見られたが、ピアノに合わせて保育者が楽しんでいる姿を見せることで、子どもたちも音に合わせて表現を楽しむ姿に繋がっていった。



うさぎの動き
手で耳をつくり
両足ジャンプで進む



りすの動き
胸の前でこぶしを作り
小さく動く。

「音を聴き動く」

ピアノの音を聴き、ボールを集める・止まる・3回屈伸・ボールを上に乗るといった動きを行った。



ボール集め



屈伸3回
ボールを上に乗る



ボールの片付けもリズムに合わせて



「楽器に触れる」

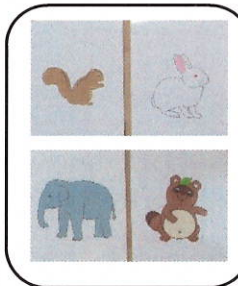


楽器は鈴触れ、持ち方・叩き方を講師の先生から教わり、保育者が子どもたちにつく。

「きらきらぼし」のピアノに合わせて楽器に触れる経験を行った。

【3月 2回目】

「音に合わせた動きの表現」



2 回目は始める前にどんな動物がいたかイラストをみて思い出してから、動物になりきったので、子どもたちの反応がよく、1 回目よりも笑顔で楽しむ子どもの姿が増えました。

「音を聴き動く」



1 回目同様、ボール集め → 屈伸3回ボールを上に乗る → リズムに合わせて片付け

「楽器に触れる」

2回目はハンドベルを椅子に並べ、「ぶんぶんぶん」の曲に合わせてハンドベルを鳴らす。

保育者と一緒にピアノの音に合わせて、「ソ(ぶん)・ファ(ぶん)・ミ(ぶん)、(はちがと)・ド(ぶ)」とハンドベルを叩くことを楽しんだ。

ソ ファ ミ



ド



〈活動中の子どもの姿・声、子ども同士や保育者との関わり〉

- ・1回目は場所見知りや講師の先生に対し緊張していた様子。保育者の楽しく活動する姿を見せることで次第にピアノに合わせて動いたり参加する姿に変わっていった。
- ・ピアノが鳴ることで始めは驚く姿も見られたが、慣れてくるとピアノ音で自然と身体が動き出す様子が伺えた。
- ・楽器などに触れることで、楽器に興味関心を高めている。
- ・リトミックを行う中で、友だちの様子を側で見守りながら、順番がくるまでに期待感を高める声掛けを行い「順番を待つ」という社会性の部分にも繋がっていた。
- ・境を整える。
- ・毎日、自然とそこにある環境に興味・生き物に対し疑問を抱くようになることも増えていった。

5. 振り返り

〈振り返りによって得た保育者の気づき〉

- ・年齢によって興味や関心度合いは異なるが、1回目に比べ2回目は活動内容や“楽しかったこと”として子どもたちの記憶に残っていたので、伸び伸びと活動を楽しむ姿に繋がった。
- ・今まで0, 1歳児クラスは楽器に触れた活動を取り入れていなかったが、今回のリトミックを通し、クラスの活動でも楽器に触れるきっかけになった。
- ・クラスで楽器に触れる機会を作ったことで、音を楽しんだり手遊び・体操の他にも身体表現に繋がる活動に広がった。今後もクラスで楽器に触れる機会を作っていきたい。
- ・0, 1歳から楽器に触れる活動を考えていなかったが、固定観念をなくし、取り組んでみようと思えるきっかけになった。

保育室でも楽器に触れる機会
をつくりました。



とうきょうすくわくプログラム活動報告書

施設番号	
施設名	マミー吉祥寺保育園
施設所在地	東京都武蔵野市吉祥寺東町 3-1-2
法人名	

1. 活動のテーマ

〈テーマ〉

生き物の生きる環境～生き物(オタマジャクシ)の生態系を知ろう～

〈テーマの設定理由〉

元々、戸外で虫とりや観察を楽しむ姿が見られていた。
自分たちで育てることにより苦手な生き物に対して親しみ、成長するにつれて、姿の変化、命の大切さを感じてもらい体験に繋がたい。また子どもたちが、実際に飼育していく中で抱く疑問に対し、知りたいという興味や探求心が調べる力を育むことに繋がって欲しいと願い持ってこのテーマに設定した為、成長の変化が見て分かるオタマジャクシを飼育することにした。

2. 活動スケジュール

令和7年4月から6月にかけて実地

3. 活動のために準備した素材や道具、環境の設定

- ・虫かご、網。デジタルカメラ。ノートパソコン。
- ・生態系を調べることができる本・図鑑。
- ・画用紙、模造紙、鉛筆、クレヨン、色鉛筆。
- ・観察する過程の中で生き物の絵を描く姿に広がった為、自由遊び時は虫かごを机の上に出し観察や模写を楽しめるような空間を用意した。
- ・模造紙を用意し、描画や模写したイラストを貼り大きな池を作れるようにした。廊下に貼り出すことで、保護者に子どもたちの興味を発信できる場を設けた。

4. 探求活動の実践

〈活動の内容〉

【4月】

最初にオタマジャクシを目にした時「ちいさいね」「かわいい」「カエルになるんだよね」と声があがる。机の上にオタマジャクシの入ったカゴを置き、皆で観察を楽しむことから始まる。
登園すると生き物が好きな子ども、苦手意識を持つ子どもも「今日も泳いでいるね」と毎日オタマジャクシの様子を気にかけて観察を楽しんでいた。
戸外活動では虫探しを楽しみ、ヤモリを捕まえオタマジャクシと同様に観察を楽しむ様子があった。ヤモリの弱った様子を逃がしてあげる提案をすると残念そうにしながら「逃がさないともっと弱ってきちゃうよね」「元気でね」とヤモリの姿が見えなくなるまで見守る様子が見られた。



毎日、観察が日課のようになり「こっちのオタマジャクシ、足がある」と発見や姿の変化に喜びを感じている様子であった。

【5月】

オタマジャクシの生態系を知る中で子どもたちのオタマジャクシ・カエルに対する興味関心は広がり6月に壁に飾る製作もオタマジャクシやカエルを題材としたものに繋がった。



オタマジャクシの飼育を通して、図鑑で生態系を調べることが日常的な風景になり、捕まえた生き物は「種類」「環境」「食事」など分からないことは保育者に聞くことよりも「図鑑で調べてみる」と調べる力や探求心が育っていった。



朝夕の3歳クラスとの異年齢保育では図鑑やオタマジャクシの虫かごを置き、模写が遊びの1つとなっていた。4、5歳が実物や図鑑を見てオタマジャクシを描き、その姿を見て3歳が絵を描くという異年齢保育で共通を持った楽しみに繋がったので、模造紙を用意したことで1つの作品づくりができた。



【6月】

オタマジャクシがカエルに成長する過程で、カエルが生きていく環境にも理解を深めていった。「お水だけだと溺れちゃうんだよ」と得意げに話し、オタマジャクシを育てる時の環境の違いにも知識を深めていた。またカエルはアブラムシを食べると知り、活動の中でアブラムシを探したり、登園前にアブラムシを探すなど育てることに責任感を抱くようになった姿へと繋がっていった。



徐々にアブラムシが摂れなくなる中、子どもたちと話合う。カエルのご飯を用意できないとヤモリの時のように弱ってしまう…まだ一緒にいたいという気持ちを抱えながらも全員が自然にも戻してあげるというこたえでまとまった。飼育・観察・生態系調べを通し、生命の大切さを感じることができた。



〈活動中の子どもの姿・声、子ども同士や保育者との関わり〉

- ・生き物を観察・飼育するにあたり、疑問を抱き「先生、なんで？」声にする子ども、疑問に繋がらない・興味に繋がらない姿など様々。
- ・疑問を抱く子どもに対して
すぐに答えを与えるのではなく、「え、なんでだろうね。」「確かに不思議だよね。よく気付いたね。」と一緒に疑問に向き合ったり、疑問を抱けた気付きを認めていくようにする。色々な考察を出した後、「図鑑で調べてみようか」「答え合わせしようか」とクイズの答え合わせを行う感覚で図鑑を開き興味を抱いている子どもと、疑問→調べるを繰り返していく。
- ・「ヤモリって何食べる？」→図鑑で調べる→「アブラムシだって」「アブラムシってどこにいる？」「公園にいるよ」「取りにいきたい！」と子ども同士の中で知っていること、やりたいことの会話が弾んでいく。
- ・散歩活動時にアブラムシや餌になる虫の採取が日課になる。
- ・「おたまじゃくし、あし生えたかな？」→毎日の観察。
- ・「おたまじゃくしでも色がちがう！」→保育者と図鑑で調べ、種類があることを知る。
- ・「おたまじゃくしのあしがはえた！いつカエルになるの？」→子ども同士図鑑で調べる→成長してカエルに近づいてくると、しっぽも短くなることを知る。
- ・「カエルはどんな所で暮らすの？」→保育者と調べる→水だけでは生きられないカエルがいることも知る→「そろそろカエルになるから大きい石を用意しないと！」→保育者と一緒にカエルとおたまじゃくしの水槽を分けたり生き物の暮らす環境を整える。
- ・毎日、自然とそこにある環境に興味・生き物に対し疑問を抱くようになることも増えていった。

5. 振り返り

〈振り返りによって得た保育者の気づき〉

- ・生き物の苦手な子どももいる中で飼育を始めたが、いつしか興味へ繋がり、会話や生活に中心が飼育している生き物のことでいっぱいになっていった。
- ・一番子どもたちに身についたことは「自分で調べる」ということ。飼育に当たって生態系を調べられるように図鑑をおいたこと、またすぐに保育者が答えを伝えずに、子どもたちの疑問に向き合うようにしたことで、図鑑で調べるという習慣に繋がる力となった。「そうだよね！不思議だよね、よく気付いたね！」と疑問を認めることで、「知らないこと」が「悪いこと」ではなく「調べたらわかる」に繋がっていった。
- ・あたり前の日常となった中で、虫や生き物に苦手意識を抱いていた子どもたちも、次第に興味に繋がり、一緒に観察したり、「わたしも不思議に思う！」と意見を言ったり、調べる友だちの中に入りようになり、クラス全体で1つのことに熱中していたので子どもたちにとっていい経験に繋がっていると感じた。
- ・生き物を飼育することの難しさ(餌の確保・環境整備)を自分たちで行くことで、生命の大切さに気付き小さな昆虫に対しても優しさをもって接することができるようになった。
- ・毎日、生活の中に生き物がいたことで苦手意識がなくなっていた子どもがほとんどだった。育てることで愛着がわいていた。また1つに絞らず、様々な生き物を飼育したことで調べる習慣が身についたと感じた。
- ・生き物を通して保護者との繋がりが深くなった。ご家庭から、「〇〇の幼虫がいます」と声をもらったり、「登園前に一緒に公園に行っておアブラムシとってきましたよ」と保護者も交えて飼育を楽しむことができた。